



新しい時代を生き抜く児童の育成

身につけさせたい資質・能力と主体的に学ぶ児童の姿とのつながりに着目して

千葉大学教育学部附属小学校



作成日時: 2020.7.12

研究期間: 2019.7~2020.3

作成: 2019年度 研究主任 中島 隆洋



新しい時代を生き抜く 児童の育成とは

本校では、平成29年度より「新しい時代を生き抜く児童の育成」と主題を掲げ、研究を進めてきた。「新しい時代」とは、AI技術の進化や情報化が進む時代、目まぐるしく変化し、多様性に富む時代のことである。また、少子高齢化が一層進み、一人一人の判断や責任・負担が増すといった時代であり、これらのことを見据えて「新しい時代」と設定したものである。「生き抜く」とは、上記のような新たな時代と向き合い、その中で満ち足りた生活を送り、共に働き、持続可能な人間社会を作っていける児童のことである。起こり得る実生活上の問題に対峙しつつ、自分らしさを表出できる人間を育てよう。そういう思いから「生き抜く児童」としている。

Chinbo-a-Juni

研究経緯

research history

2016

第11期研究 まとめ

7年間に渡って行われてきた第11期研究「学びを楽しむ」を完結

2018

第12期研究 2年目

(副主題)身につけさせたい資質・能力と授業との関係に着目して

2020

新研究立ち上げ

現在 進行中

第12期研究 発足

第12期研究「新しい時代を生き抜く児童の育成」をスタート 初年度副主題は「身につけさせたい資質・能力に視点をおいて」

2017

第12期研究 まとめ

(副主題)身につけさせたい資質・能力と主体的に学ぶ児童の姿とのつながりに着目して

2019

プレゼン内容

第12期「新しい時代を生き抜く児童の育成」 研究経緯

research history

3年次

身につけさせたい資質・能力と
主体的に学ぶ児童の姿とのつながりに着目して

「保障すべき児童の学びに向かう姿」
を示した3年目

2年次

身につけさせたい資質・能力と
授業との関係に着目して

「どのように育成するのか」を示した2年目

1年次

身につけさせたい資質・能力に
視点をおいて

身につけさせたい資質・能力を整理した1年目

資質・能力4つの分類

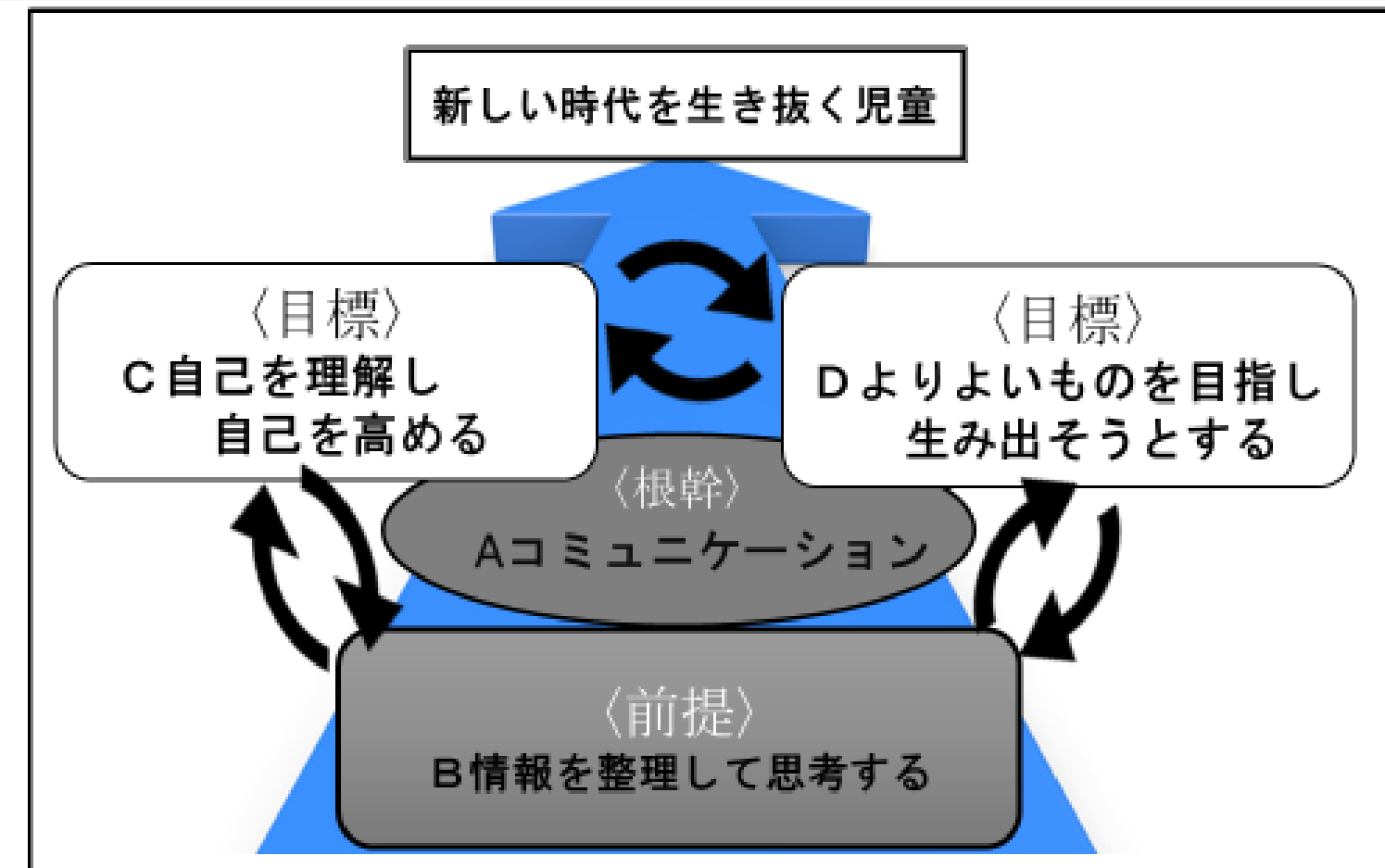
育成を目指した資質・能力を
A~Dの4つに分類した

A	コミュニケーション	国語	外国語				特活
B	情報を整理して、思考すること	社会	家庭	保健			道德
C	自分を理解し、自己を高めること	体育	帰国				音楽
D	よりよいものを目指し 生み出そうとすること	算数	理科	図工	総合		

「身につけさせたい資質・能力」を整理した1年目

前年度4つに分類した資質・能力を再整理し、
その構造図を示すと共に、
必要な手立てを5つ示唆した

育成を目指す資質・能力の構造図

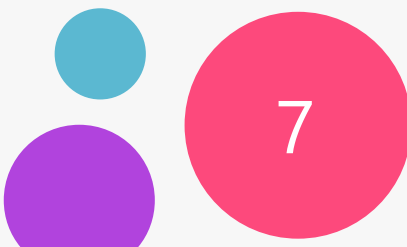


「どのように育成するのか」を示した2年目

3 年次研究の**問題意識**

資質・能力へとつながる 主体的な姿とは

我々が育成を目指す資質・能力を,児童自身が主体となって身につけていく学びのあり方を示そうとした



研究の目的

◎新しい時代を生き抜くことのできる児童に必要な資質・能力と、それを児童が身につけていく教育のあり方について明らかにする

○各教科等が育成を目指す資質・能力へとつながる主体的な姿の具体を明らかにする

○求める姿が現れた要因を探り、その姿を保障するための授業デザインの要点を探る

研究の進め方

5 steps

部会研究

1

全体研究と、昨年度の部会研究を受け、身につけさせたい資質・能力を設定し、実践、検証を行う

2

班別研究実践

教科等部会を分散させて組んだ少人数班で研究実践を参観する。教科を越えた多様な専門を背景とする研究同人が、実践を教科横断的に捉える中で、全体研究に対する成果、課題を明らかにしていく

3

座談会Ⅰ

班別研究実践後に、身につけさせたい資質・能力へつながると判断される児童の主体的な姿の具体や、その姿の表出要因について、班員で検討し合う

4

座談会Ⅱ

各部の紀要が完成した段階で再度②・③の班員で集まり、学びのあり方について検討し合う。ここでは②の班別研究実践で得られた成果はもちろん、その後の追跡調査の結果や、班員が所属する各部の研究成果等も踏まえながら教科等横断的に検討する

5

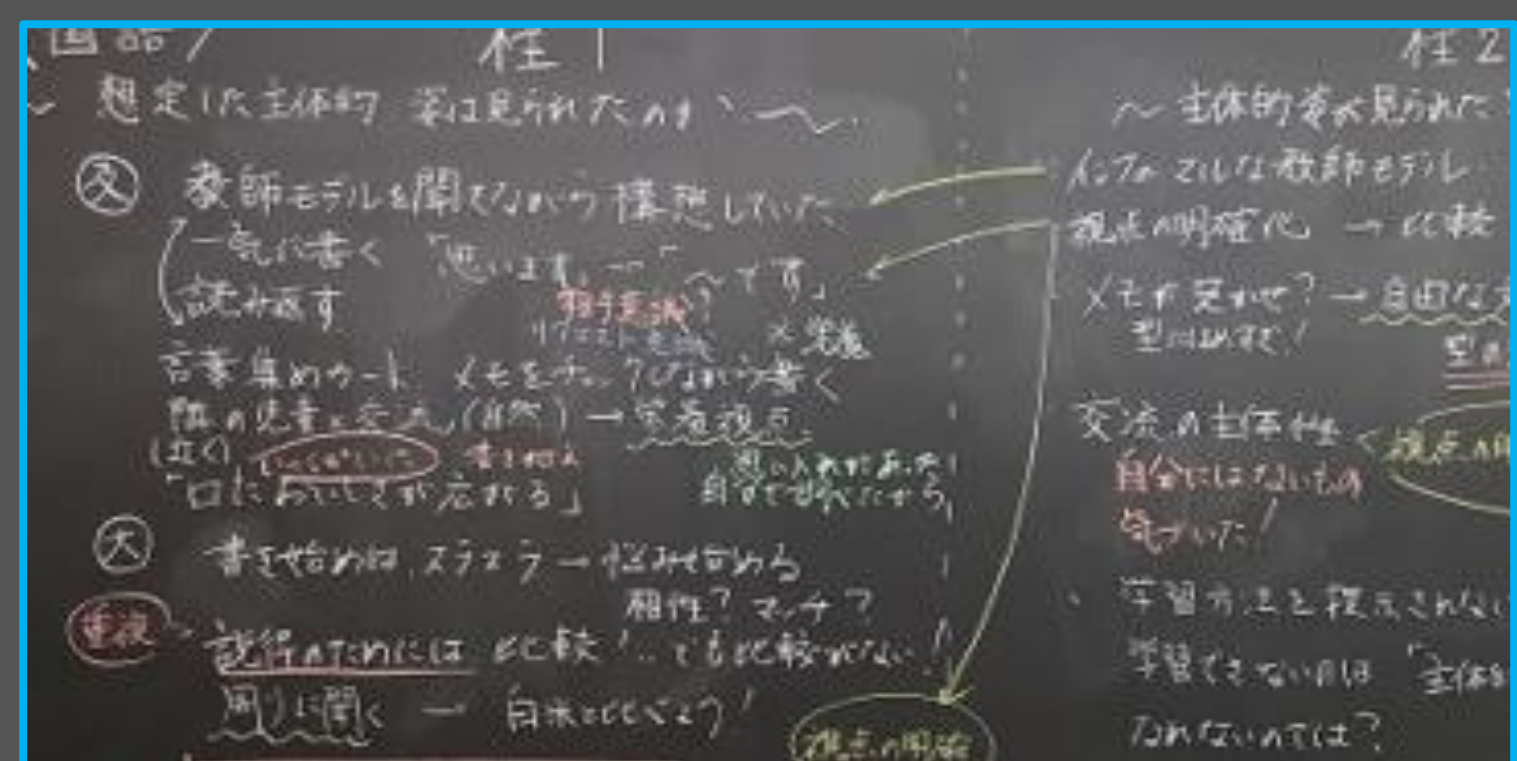
研究推進委員会及び研究全体会での協議


①～④の検討を受け、研究推進委員会で整理したものを研究全体会において協議し、まとめる



各部会が育成を目指した資質・能力と実践概要について

12教科等部会の概要



国語科	資質・能力と 本年度重視した点	○自ら語彙を豊かにしていく力 ・児童が自覚的に言葉を運用する姿に着目
	研究実践の概要	 4年 お勧めの給食を紹介し、 「良い余地がある教師モデル」 を通して、効果的に書く視点 を与える相手を意識しながら児童 が表現したりする中で児童が表現方法
	研究同人が判断した 「主体的な姿」が見ら れた授業場面	・お勧め給食を紹介する際、今の文章では伝わり難 ・効果的な書き方を模索する等、言葉に対する新たな ・新たな視点で文章を批判的に振り返ったり、その視

国語科


(育成を目指した資質・能力) 自ら語彙を豊かにしていく力

(重視した点) 児童が自覚的に言葉を運用する姿に着目すること

社会科

(育成を目指した資質・能力) 社会的事象を洞察する力

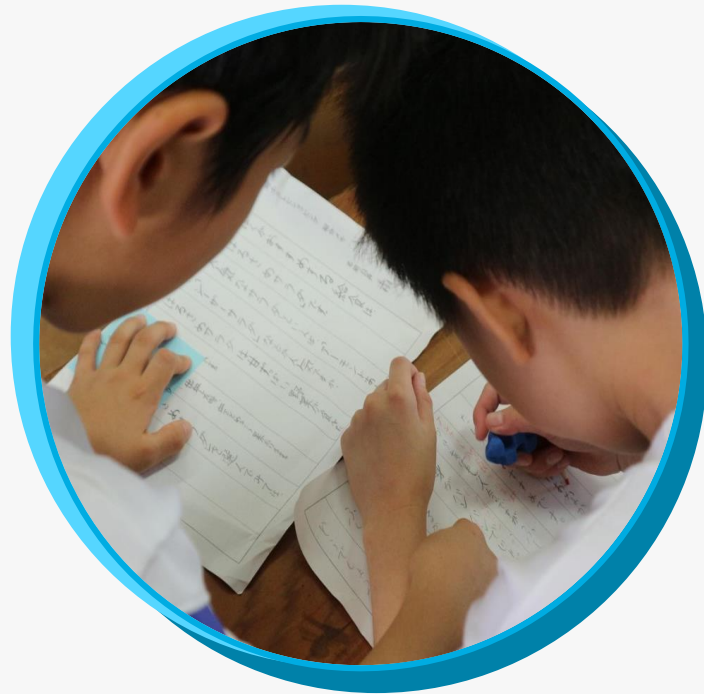
(重視した点) 自ら情報を獲得し、精査する姿を引き出すこと

資質・能力と 本年度重視した点	○社会的事象を洞察する力 ・自ら情報を獲得し、精査する姿を引き出すこと
研究実践の概要	 4年 電力供給の課題を基に、今後の発電の在 た。本時では、発電方法に関する様々な情報を 当な判断をするために必要な情報(観点)が他 くことをねらった。
研究同人が判断した 「主体的な姿」が見ら れた授業場面	・最善の発電方法を判断するには比較観点が不足している事を自 ・どのような視点で発電方法を比較すればよいか検討する場面(I) ・比べる視点に気付いた後、不足している情報を収集したり、最 いてその視点で話し合ったりする場面(III)

各教科等部会が育成を目指した資質・能力

紀要には 12の教科等部会の実践が掲載

各教科等部会が育成を目指した資質・能力と実践概要



国語部会

自ら語彙を豊かにしていく力

●実践概要 4年

お勧めの給食紹介メモを書く学習。表現に改良余地がある教師モデルを提示し、それを全体で推敲することを通して、効果的に書く視点に気付かせていった。相手を意識しながら交流をしたり、最適な言葉を吟味したりする中で表現方法を推敲した。



社会科部会

社会的事象を洞察する力

●実践概要 4年

電力供給の課題を基に、今後の発電の在り方を考えていった。本時では、発電方法に関する様々な情報を共有する中で、妥当な判断をするために必要な情報（観点）が他にもあることに気付くことをねらった。



算数部会

よりよい方法や解をもとめようとする力

●実践概要 6年

反省的思考を働かせながら考えを深める「データの活用」の学習の在り方を探った。15年前と現在の体力テストのデータを比較し、「昔と比べ体力が落ちている」という話が本当かどうかを児童が分析した学習。



理科部会

問題を発見する力

●実践概要 4年

温水は上昇し、冷水は沈むといった性質を応用し、4層のセパレートドリンクをつくる活動を仕組んだ。その活動の中で、温度を下げれば下げるほど下に沈む水が、氷になると浮く矛盾を発見していく学習。

各教科等部会が育成を目指した資質・能力と実践概要



開発研究部ESD部門生活科

経験と知識をつなぎ
新しいものを生み出す力

●実践概要 1年

児童が作った秘密基地に対し、「敷地内に勝手に作るのを禁止する」と書かれている張り紙を児童が発見する。「秘密基地を存続させたい」という共通の目的に向け、児童が主体的に解決行動をしていく生活科における学習。



音楽部会

新たな価値を生み出す力

●実践概要 4年

温水は上昇し、冷水は沈むといった性質を応用し、4層のセパレートドリンクをつくる活動を仕組んだ。その活動の中で、温度を下げれば下げるほど下に沈む水が、氷になると浮く矛盾を発見していく学習。



図工部会

新たな価値を作り出す力

●実践概要 4年

材料や方法を工夫したり、「まる」の捉え方を変容させていったりしながら、自分にとって価値のある「最高のまる」をつくり出す学習。「まる」というモチーフ以外、児童が自由に選択・決定し、表現を追求していった。



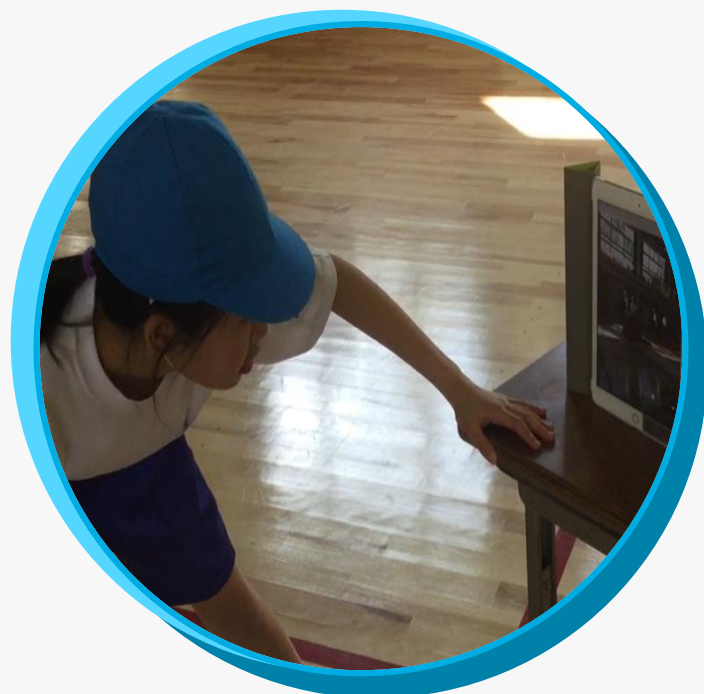
家庭科部会

問題を解決する力

●実践概要 6年

家庭での過ごし方に対する見方や考え方に気付くことで、これまでの家庭での時間を見つめ直すことをねらった。生活時間を比較・分類する中で、友だちとの見方や考え方の違いに気付いていった。

各教科等部会が育成を目指した資質・能力と実践概要



体育部会

運動のおもしろさを味わえる力

●実践概要 4年

「大きく、たくみに跳び越す」という共通テーマを設け、児童が跳び箱運動のおもしろさを自分なりに追求していった。児童が運動のおもしろさを追求する中で、結果として開脚跳びや抱え込み跳びといった跳び箱運動の技の習得へとなっていくことを期待した。



道徳部会

他者・自己との対話から考えを深める力

●実践概要 2年

キリンの「みなみ」が、ビニールごみを食べて亡くなった事故を受け、行動した二人の人物の生き方を教材化した学習。自分らしさを生かしながら行動する二人の生き方に触れることで、自分なりに自然を守る方法を考えていくことをねらった。



特別活動部会

集団活動において最適解を導く力

●実践概要 5年

問題点や不満など、マイナス面に焦点化されがちな学級会の話し合いを、未来志向の話し合いに変換していく学習。模擬課題を通してその良さを実感させ、自分たちの身近な問題も変換できることに気付かせた。



外国語・外国語活動部会

対話する力

●実践概要 6年

外国の方へ学校紹介をする学習。附属小のお気に入りの場所や、自慢できる場所について、既習表現を想起しながら紹介文を考えた。児童が伝えたい内容を、自分の言葉で伝えようとする姿を目指した学習。

求める学びに向かう姿に関して検討



座談会Ⅰ

実践直後に班員が集まり検討

座談会Ⅱ

各部の紀要完成後に、再度集結し、検討

研究成果

research finding

1 求めている姿が表出していた3つの授業場面

2 資質・能力へとつながる主体的な姿の具体

3 その姿を保障する授業デザインの要点

主体的な姿が見られた3つの授業場面

研究成果①

目標との差や問いを
自覚する場面

01

新たな視点に
気付くまでの場面

02

気付いた視点を
働かせる場面

03

資質・能力へとつながる主体的な姿とは どのようなものだったのか

研究成果②

紀要掲載 事例1・2より

自己選択した学び方の中で、新たな視点の必要性を自覚していく姿

紀要掲載 事例3より

自らの意思で他者と共に学ぶ中で、新たな視点を獲得していく姿

紀要掲載 事例4より

教師のファシリテートによって、新たな視点の価値を自覚していく姿

紀要掲載 事例5より

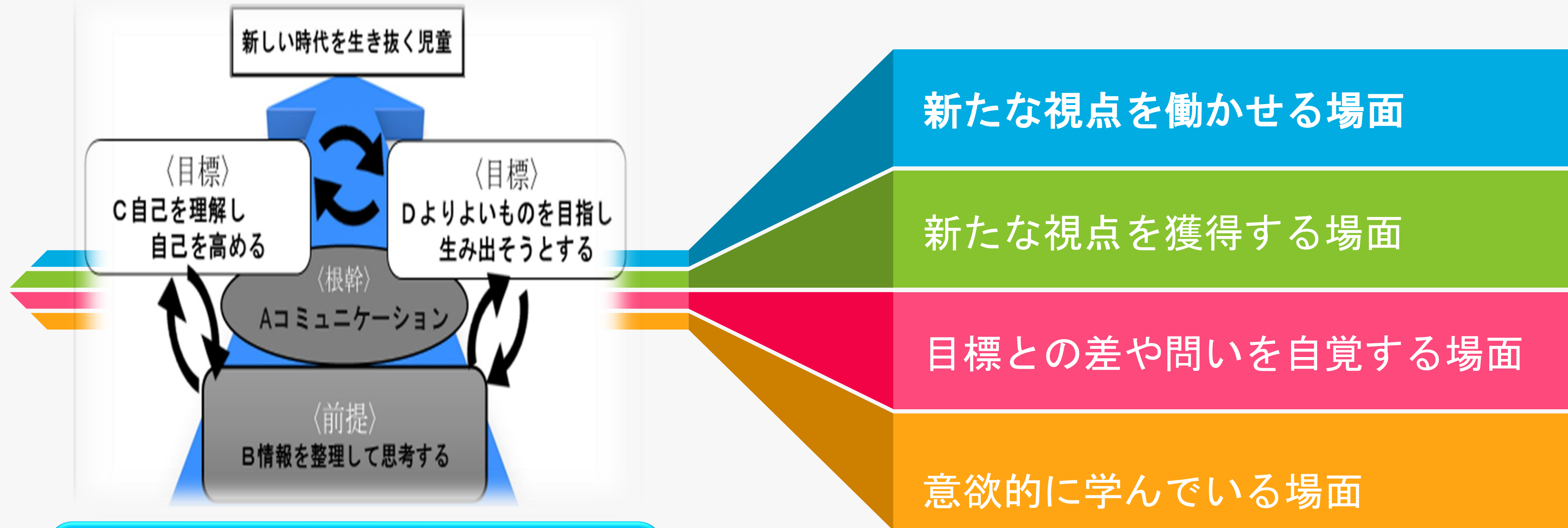
学び方を自ら調整し限定された視点を更新していく姿

紀要掲載 事例6より

新たな視点を働かせながら批判的に振り返る姿、
学び方や場を調整する姿、粘り強く学び続ける姿

その姿を保障するための授業デザインの要点を場面ごとに整理

研究成果③



昨年度研究との関連

昨年度研究で示した構造図（青の矢印）における児童の保障すべき学びに向かう姿を示唆した

その姿を保障するための授業デザインの要点を場面ごとに整理

研究成果③

資質・能力へとつながる主体的な姿の具体

授業デザインの要点

新たな視点を働かせる場面

・新たな視点を働かせながら批判的に振り返る姿, 学び方や場を調整する姿, 粘り強く学び続ける姿

(事例6より) ・主体的な姿が出やすい場面を見極める
(座談会より) ・選択肢の保障 振り返りの重視

新たな視点を獲得する場面

・学び方を自ら調整し限定された視点を更新していく姿
・教師のファシリテートによって, 新たな視点の価値を自覚していく姿
・自らの意思で他者と共に学ぶ中で, 新たな視点を獲得していく姿

(事例5より) ・発展性のある学び ・停滞の原因を見極める
(事例4より) ・適切なファシリテート
(事例3より) ・協働的な学びが生まれる必然性を仕組む
(座談会より) ・価値づけ・学びの文脈に寄り添う・選択肢の保障

目標との差や問いを自覚する場面

・自己選択した学び方の中で, 新たな視点の必要性を自覚していく姿

(事例2より) ・失敗や試行錯誤の重要性
(座談会より) ・学びの文脈に寄り添う・選択肢の保障
・教科等の本質・振り返り・適切なファシリテート

意欲的に学んでいる場面

・興味・関心を抱いた対象に対して, 自ら学んでいる姿

(事例1より) ・主体的な姿の質の違いを把握する
(座談会より) ・動機づけ・真正の学び



これまでの研究経緯

(1)主題、「新しい時代を生き抜く児童の育成」とは
本研究は、新しい時代を生き抜くことのできる児童に必要な「資質・能力」とそれを児童が身につけていく教育のあり方について明らかにすることを目的に、平成29年度から3か年計画として進めてきた研究である。

「新しい時代」とは、AI技術の進化や情報化が進む時代、目まぐるしく変化し、多様性に富む時代のことである。また、少子高齢化が一層進み、一人一人の判断や責任・負担が増すといった時代であり、これらのことを見据えて「新しい時代」と設定したことになる。「生き抜く」とは、上記のような新たな時代と向き合い、その中で満ち足りた生活を送り、共に働き、持続可能な社会を作っていく児童のことである。起こり得る実生活上の問題に対峙しつつ、自分らしさを表出できる人間を育てよう。そういう思いから「生き抜く児童」としている。

(2)これまでの研究経緯

①平成29年度（1年次）

児童に身につけさせたい資質・能力に視点を置いて

第12期研究主題の立ち上げにおいて、「新しい時代を生き抜く児童の育成」を主題に掲げた。各部の研究のまとめから、これから求められる資質・能力を大きく4つのカテゴリに分類し、それらを身につけるための授業改善の視点を見出すことができた。

②平成30年度（2年次）

身につけさせたい資質・能力と授業との関係に着目して

平成29年度の研究を踏まえ、副題を「身につけさせたい資質・能力と授業との関係に着目して」とし、主題解明のために、どのような授業が有効なのかを明らかにしようとした。具体的には、どのような手だてが資質・能力の向上に関係しているのか、昨年度の成果をもとに授

全体研究

新しい時代を生き抜く児童の育成 —身につけさせたい資質・能力と主体的に学ぶ児童の姿とのつながりに着目して—

1. 本年度の研究の問題意識

昨年度までの研究において、資質・能力を身につけていく過程の児童の姿を段階的・系統的に見取るといった点に一定の課題が残されていた。この課題は、学びの過程で児童のどのような姿を大切に見取るか焦点化しないことには解決できない課題である。そこで、これまでの研究成果を基に、児童の学びに向かうどのような姿を保障すればよいのかについて検討していくこととした。

1年次研究においては「自己のアップデート」といった、自らを更新していく姿を重視する学びの大切さが示唆された。また、2年次研究においても「自分を理解し、自己を高める」ことを目標に授業を構成する重要性が示唆された。つまり我々は児童が学びを自分事と捉え、主体的に学びに向かっていく姿を大切にしようとしてきた経緯があると言える。

しかし、その姿の中でも、各部会が育成を目指す資質・能力へとつながる主体的な姿の系統性や共通性はどうなのがあるのだろうか。それを明らかにすることができれば、新しい時代に必要な資質・能力を児童が主体的な学びの中で身につけていく教育のあり方をより一層はつきりと示すことができるはずである。

これらを踏まえ、本年度は各教科等が掲げた資質・能力と主体的に学ぶ児童の姿との「つながり」に着目

代を生き抜く児童の育成

い資質・能力と主体的に学ぶ児童の姿とのつながりに着目して—

2. 研究の目的

①新しい時代を生き抜くことのできる児童に必要な資質・能力と、それを児童が身につけていく教育のあり方について明らかにする。（3か年計画）

②各教科等が育成を目指す資質・能力へとつながる主体的な姿を集積・整理するとともに、その姿が表れた要因を探ることを通して、新しい時代を生き抜く児童を育成するための教育のあり方を明らかにする。（本年度）

②班別研究実践

教科等部会を分散させて組んだ少人数班で研究実践を参観する。教科を越えた多様な専門を背景とする研究同人が、実践を教科横断的に捉える中で、全体研究に対する成果、課題を明らかにしていく。

③座談会Ⅰ（②直後の検討会）

班別研究実践後に、身につけさせたい資質・能力へとつながると判断される児童の主体的な姿の具体や、その姿の表出要因について、班員で検討し合う。

④座談会Ⅱ（各部会の紀要を踏まえた検討会）

各部の紀要が完成した段階で再度②・③の班員で集まり、学びのあり方について検討し合う。ここでは②の班別研究実践で得られた成果はもちろん、その後の追跡調査の結果や、班員が所属する各部の研究成果等も踏まえながら教科等横断的に検討する。

⑤研究推進委員会及び研究全体会における協議

①～④の検討を受け、研究推進委員会で整理したものを研究全体会において協議し、まとめていく。

3. 研究体制と研究の進め方

①研究体制

本校では、資料1の研究組織図に示す研究体制のもとで研究を進めていく。

②研究の進め方

①部会研究（身につけさせたい資質・能力の設定）

全体研究と、昨年度の部会研究を受け、身につけさせたい資質・能力を設定し、実践、検証をする。

資料1 研究組織図



全体研究紀要

研究紀要には、事例を中心に本研究内容が掲載されている。また、各教科等部会の研究実践に関しても、10ページを基本として詳細に記録されている

ここからは、資質・能力へとつながる主体的な姿を明らかにすることにつながった各事例を、紀要をもとに紹介していく

主体的な姿を見出すことにつながった、 紀要に掲載されている事例を紹介

紀要の紹介

※ 紀要の抜き出し

事例 1

「I. 目標との差や問いを自覚する場面」において見られた主体的な姿の共通点 主体的な姿に見られる「質の違い」

授業概要 4年 単元名 最高のまるを作ろう

材料や方法を工夫したり、「まる」の捉え方を変容させていったりしながら、自分にとって価値のある「最高のまる」をつくり出す学習。「まる」というモチーフ以外、児童が自由に選択・決定し、表現

類似した事例が見られたその他の実践について

(1)【体育部】大きく跳び越すという視点で、跳び箱運動のおもしろさを味わえる児童を育成しようとした実践の中で、大きくという視点とは違った視点で夢中に

事例 1 には、意欲的な姿と「主体的な姿」との質の違いについて掲載

座談会 I を通して、求める主体的な姿を検討。その後、研究推進委員会にて整理を行った。
紀要には見出した7つの主体的な姿を事例ごとに掲載

求める主体的な姿の具体とその姿を保障するための授業デザインを整理

紀要の紹介

※ 紀要の抜き出し

事例 2

「1. 目標との差や間いを自覚する場面」において見られた主体的な姿の共通点
自己選択した学び方の中で「新たな視点」の必要性を自覚していく姿

授業概要 1年(生活科)ひみつきちをつくらう
児童が作った秘密基地に対し、「敷地内に勝手に作るのを禁止する」と書かれている張り紙を見
児童が発見する。「秘密基地を存続させたい」という
共通の目的に向け、児童が主体的に解決行動をし
ていく生活科における学習。

本実践では、張り紙の【警告】に対して「何とかしたい」という願いが児童の共通目的となっていた。しかし、

を立て、見通しをもたせるのか」を児童の実態に合わせて授業デザインに取り入れていく事が大切なの
えよう。

主体的に取り組み、失敗することの重要性

実際に選択した解法が失敗だと自覚した時、
は自ら振り返る視点を得たり、失敗を基に新たな
を思考し始めたりするなど、主体的な姿が生まれ

② その姿を保障する授業デザインを示唆

成するために必要な、「対象を自分との関係で捉える」
という新たな視点を、主体的な学びの中で獲得できた
姿だと言える。

やってみる中で、やりたかった事が自覚される

前述の児童が「この方法はうまくいかなそうだと自
身の学びを適切に振り返り、問題点を自覚し、修正する
ことができたのは、実際にやってみることが功を奏し
ている。「まずやらせてみるのか」それとも「先に計画

いて、アンサンブルの構成を頭の中だけで練る時間よ
りも、試す時間が十分に保障されていた。そのため児童
は夢中になって何度も試すことができていた。また、児
童だけで手軽に試すことができる教材もよかったとい
う意見が、座談会Ⅰ・Ⅱにおいて挙がっていた。

何度も試す過程で、現実とイメージの差を自覚でき
た児童は、音楽に対する見方・考え方を自ら修正しよう
と、学び方を調整し始める姿が見られていた。

●事例2から示唆できる授業デザインの要点 (失敗や試行錯誤の重要性)

先に見通しをもたせるのか、実際にやらせてみるのかを児童の実態に合わせて判断する。
選択した学び方が目標からそれる姿だとしても、その事実が児童が気付くのを待つことも重要になる。

① 資質・能力へとつながる主体的な姿を示した

12教科等の実践から見出した児童の姿を7つ
に分類し、資質・能力へとつながる主体的な
姿の具体を示唆した

求める主体的な姿を保障するための授業デザインの要
点も示唆することができた

紀要に掲載されているその他の事例の概要

紀要の紹介

事例 3

「Ⅱ. 新たな視点に気付くまでの場面」において見られた主体的な姿の共通点
自らの意思で他者と共に学ぶ中で「新たな視点」を獲得していく姿

事例 4

「Ⅱ. 新たな視点に気付くまでの場面」において見られた主体的な姿の共通点
教師のファシリテートによって、新たな視点の価値を自覚していく姿

事例 5

「Ⅱ. 新たな視点に気付くまでの場面」において見られた主体的な姿の共通点
学び方を自ら調整し、限定された視点を更新していく姿

事例 6

「Ⅲ. 新たな視点を働かせる場面」において見られた主体的な姿の共通点
新たな視点を働かせながら、
批判的に振り返り・学び方や場を調整し・粘り強く学び続ける姿

授業概要
家庭
に
対
し、
間

本実
のよ
ため
学習
頼め
類で
童が
視点

授業概要
問題
合い
志向
通し
題も

本時
志向
に発

授業概要 4年
お勧
「表
それを
視点
意識
味し

本実
「比
また、

12教科等の実践から、求める主体的な姿を分類・整理した

「これ...」「何ができそうか」とい
往...から、作品...作していった
で気...た...か...を働かせながら
閃き、没頭する姿を繰り返しつつ、粘り強
追究していく姿が見られた。



Contact Us!



千葉大学教育学部附属小学校
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-3-3
TEL 043-290-2462 FAX 043-290-2461



<https://www.facebook.com/chibafu/>



FAX 043-290-2461



chibahuzoku133@yahoo.co.jp



TEL 043-290-2462

ご覧いただきありがとうございました



千葉大学教育学部附属小学校